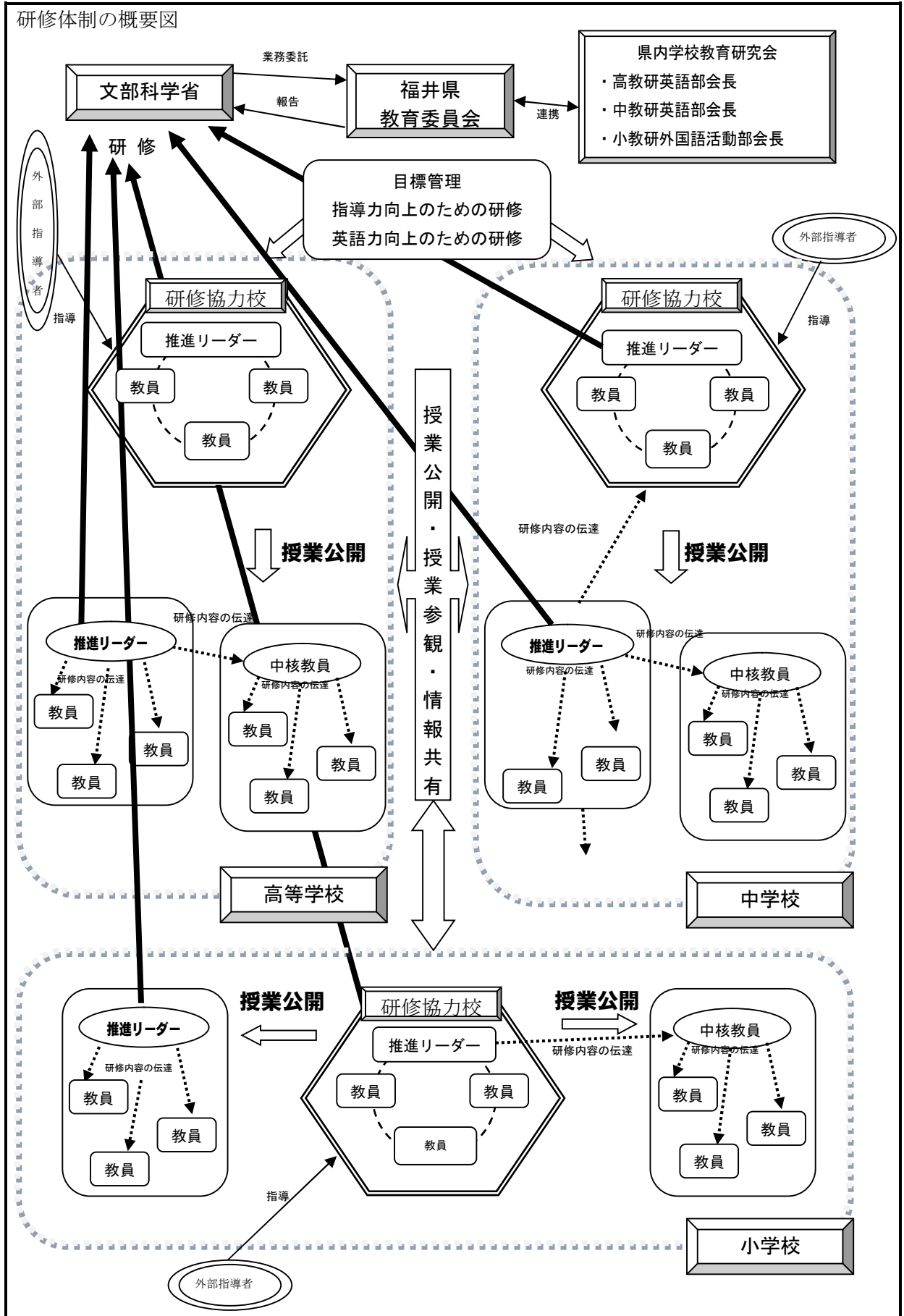


福井県英語教育改善プラン

実施内容

(1) 研修体制の概要



福井県教育委員会は、「教員の資質能力の育成」に向け、研修協力校を小学校、中学校と高校からそれぞれ1校ずつ設置し、グローバル化に対応できる人材の育成を行う。また、小中高の教育研究会外国語活動部会長および英語部会長との連携を密にし、小中高連携を踏まえた本県の英語教育推進の方向性について検討することとする。

研修協力校には、福井県立武生東高等学校および坂井市立三国中学校、敦賀市立栗野小学校を指定する。これらの学校から国が行う英語教育推進リーダー養成中央研修参加者を選出し、授業公開にあたっては、研修内容を授業に反映させることとする。この体制により、研修実習以外の場において、中央研修での研修内容を具体的に域内の教員に公開することとする。また、県内外の大学教員等を指導助言者として招へいし、指導助言者は、事前・事後の指導にあたることとする。

なお、研修協力校の協力期間は本事業の実施期間と同じくすることを原則とし、福井県教育委員会は、該当校における研修の成果と課題等を検証した上で次年度以降の指定を行うこととする。「教員の一定以上の英語力の向上」に向けては、福井県教育委員会が、研修の成果および域内の英語教員の英語力を把握し検証するとともに、求められる英語力に達していない教員に対しては、英語力向上を目的とした自己研鑽と継続した外部検定試験の受験を促し、平成30年度には県教育委員会が設定した目標を達成できるように域内の英語教員の英語力向上に努める。

(2) 英語教育の状況を踏まえた目標管理

「公立小学校、中学校および高等学校における英語教育実施状況調査」の結果を踏まえ、本県では、以下の目標設定と管理を行うこととする。

(小学校)

○教師の英語力について

英検2級以上相当の英語力を有する教師の全体に対する割合を、平成29年度までに5%に引き上げることを目標とする。目標達成に向け、福井県教育委員会では、県小教研外国語活動部会長と連携しながら、目標値と達成値を小学校教員に公表し、英語力向上を目的としたNHK語学番組等の視聴といった自己研鑽や外部検定試験の受験を奨励していく。

○研修実施回数および研修受講者数について

平成29年度の研修実施回数は、9回と設定する。また、研修受講者数については、850名とする。

(中学校)

○教員の英語力について

英検準1級以上相当の英語力を有する中学校英語教員の割合は、全体の56.3%であり、今年度の目標値57.5%を達成することができなかった。平成29年度の目標を60.0%と設定し、特に求められる英語力に達していない教員に対しては、外部検定試験の団体受検機会を設定したり、特別価格での英語検定試験受験制度等を利用したりしながら、自身の英語力向上に向けた取り組みを奨励していく。

○生徒の英語力について

英検3級以上相当の英語力を有すると考えられる中学生の割合は、全体の46.5%であり、目標値として設定した45%を達成した。平成29年度は、50%を目標値として設定することとする。目標値に達していない要因の一つに英検等外部検定試験の受験者が少ないことが考えられるため、福井県教育委員会では、まず、受験者数を増やすことを目標として、県中教研英語部会長と連携し、各中学校の生徒に対して受験を促すことにする。また、ALTを活用したチームティーチングの充実をはじめとし、授業外や学校外におけるALTと触れ合う行事等を企画運営していくことで、英語を使える生徒の育成に努めていく。

○学習到達目標の整備状況について

すべての学校において学習到達目標を設定している。公表については20.3%、達成状況の把握については44.6%という状況である。平成28年度は、公表と達成状況の把握のそれぞれについて100%を目標値として設定し、すべての項目で100%を達成するため、各校における実態を調査することとする。なお、学習到達目標については、これらの項目で高い数値を達成することも重要であるが、教師はもちろん、生徒や保護者にとってわかりやすく、生徒が学習していく上での明確な指標であることも大切であり、状況に応じて内容を改善していく必要がある。そこで、福井県教育委員会では、福井県教育研究所と連携して、福井県版CAN-DOリストの設定やその扱い方についての研究をすすめ、教員にそのノウハウを伝達していくこととする。

○パフォーマンステストの実施状況について

ほとんどの中学校において、年間3～4回程度のパフォーマンステストを実施している。福井県の中学校は地区によって、2学期制と3学期制をとっており、定期テストは4～5回の設定が多い。そこで、平成29年度には、定期テストの実施と並行してパフォーマンステストを実施し、その結果を反映した評価を重視していくことを目標とする。パフォーマンステストの質、難易度や評価の方法については、県教育委員会と教員の自主研究団体が協働して、そのあり方についての研究を進めていく。

○生徒の英語による言語活動時間の割合と英語担当教員の英語使用状況について

言語活動の授業に占める割合については、平成29年度までに70%を目標値として設定する。「教科書を学ぶ授業」から「教科書で学ぶ授業」への転換を図り、英語を使いながら4技能を身に付けていく授業に転換するために、指導主事や教育研究所員が、指導主事訪問等の際に各学校の教員に指導する。さらに、英語教育推進リーダーや県が任命する授業名人を活用し、授業改善を推進していく。

なお、英語担当教員の英語使用状況については、平成29年度までに75%を目標値として設定する。次期学習指導要領の改訂を見据え、英語の授業を英語で進めていくために、インタラク션을重視した授業の在り方についても指導する。

○研修実施回数および研修受講者数について

平成29年度の研修実施回数は、9回とし、研修受講者数については、205名（いずれも延べ数）とする。研修内容については、(3)研修の体系と内容の具体で述べる。

(高等学校)

○教員の英語力について

英検準1級以上相当の英語力を有する高校英語教員の割合は、全体の85.8%であり、今年度の目標値88%に届かなかった。特に求められる英語力に達していない教員に対しては、外部検定試験の団体受検機会を設定したり、特別価格での英語検定試験受験制度等を利用したりしながら、自身の英語力向上に向けた取り組みを奨励していき、平成29年度における目標値である89%を達成したい。

○生徒の英語力について

英検準2級以上相当の英語力を有すると考えられる生徒の割合は、全体の44.8%であり、わずかに目標に未達であった。平成29年度は、50%を目標値として設定し、目標を達成するべく努めていく。目標値に達していない要因の一つに受験者が少ないことが考えられるため、福井県教育委員会では、まず、英検等外部検定試験の受験者数を増やすことを目標として、県高教研英語部会長と連携し、各高等学校の生徒に対して受験を促すことにする。また、英語で授業を進めていくことにより、英語を使える生徒の育成に努めていく。

○学習到達目標の整備状況について

現在、すべての学校において学習到達目標を設定している。公表については21.5%、達成状況の把握については44.6%という状況である。各校への呼びかけを強化し実態を調査することで、平成29年度には、100%を達成したい。各学校の状況に応じたCAN-DO形式の目標設定と評価を行うことで、教員が指導の足並みを揃えとともに、生徒の英語運用能力を向上させていくための授業改善を引き続き推進していく。

○パフォーマンステストの実施状況について

平成28年度は、すべての学科、科目において年間1回以上のスピーキングテストおよびライティングテストを行うことを目標としたが、英語表現Ⅱで目標を達成することができなかった。教科の特性に応じて、平成29年度までに年間2～3回の実施を目標とし、内容や評価方法についても研修等の機会を利用して改善していくこととする。

○生徒の英語による言語活動時間の割合と英語担当教員の英語使用状況について

言語活動の授業に占める割合については、平成29年度に65%を目標値として設定する。教科書の内容理解を進めていくだけでなく、題材内容をもとに生徒の意見や考えを引き出し、英語で表現していくことを大切にされた授業を展開していくように、指導主事訪問等の際に各学校の教員に指導する。さらに、県が指名した授業名人による授業DVDの公開、クラスルームイングリッシュの資料等の配布等を目標達成のための手立てとする。

なお、英語担当教員の英語使用状況については、平成29年度に75%を目標値として設定する。言語活動の授業に占める割合が向上していけば、それに伴い英語担当教員の英語使用状況も改善していくことが見込まれる。したがって、英語授業における言語活動の割合を増やすことと連動して、英語使用状況を改善していくように指導していく。

○研修実施回数および研修受講者数について

平成29年度の研修実施回数は、9回とし、研修受講者数については、160名（いずれも延べ数）とする。研修内容については、(3)研修の体系と内容の具体で述べる。

(3) 研修の体系と内容の具体

1. 教員の資質能力の育成にかかる研修

福井県教育委員会は、教員の資質能力の育成に向けて、次に挙げる研修を実施する。研修の一部を外部機関との連携により行うこととする。研修の評価については、研修後の質問紙調査によるものとし、福井県教育委員会はその結果を検証し、研修の内容や研修時期、回数等の設定を行うものとする。

(小学校)

○小学校5, 6年担任教員対象英語研修(280名参加予定)

- ・小学校5, 6年生担任を対象とした研修を開催する。信州大学 酒井 英樹教授を講師に迎え、外国語活動の具体的な進め方や基本的な知識等、教科化の目的に沿った指導法を身に付けることを目標とする。

○発音指導法・語学番組活用法研修(400名参加予定)

- ・NHK 語学番組講師柴原智幸氏を招へいし、小学校1～6年生担任および管理職を対象に発音に関する指導法についての研修を実施する。

○英語教育推進リーダーによる研修(120名参加予定)

- ・国が開催する英語教育推進リーダー研修での研修内容をもとに、研修リーダーが域内中核教員を対象とした研修を実施する。

○研修協力校授業公開および授業研究会(50名参加予定)

- ・研修協力校である敦賀市立栗野小学校において、授業公開を行う。外部機関と連携した指導助言者として、敦賀市立看護大学大下邦幸教授を招へい予定。研修後には質問紙調査を実施し、結果検証をもとに次年度以降の研修の改善を図ることとする。

(中学校)

○中学校英語教員指導力向上研修(75名参加予定)

- ・次期学習指導要領の改訂に伴い、言語活動の高度化に資する研修を実施する。外部機関と連携した指導者として、山梨大学田中武夫教授を招聘予定。

○研修協力校授業公開および授業研究会(50名参加予定)

- ・研修協力校である坂井市立三国中学校において、授業公開を行う。外部機関と連携した指導助言者として、仁愛大学紺渡弘幸教授を招へい予定。

○英語教育推進リーダーによる研修(80名参加予定)

- ・国が開催する英語教育推進リーダー研修での研修内容をもとに、研修リーダーが中学校中核教員を対象とした研修を実施する。

(高等学校)

○高等学校英語教員指導力向上研修(30名参加予定)

- ・ディベートの指導を充実するために、特に5年目までの若手英語教員を対象とした研修を実施する。外部機関と連携した指導者として、立教大学教授松本茂氏を招聘予定。

○研修協力校授業公開および授業研究会(50名参加予定)

- ・研修協力校である福井県立武生東高等学校において、授業公開を行う。外部機関と連携した指導助言者として、福井大学伊達正起教授を招へい予定。

○英語教育推進リーダーによる研修（80名参加予定）

- ・国が開催する英語教育推進リーダー研修での研修内容をもとに、研修リーダーが高校中核教員を対象とした研修を実施する。

2. ALTの資質能力の向上にかかる研修

福井県教育委員会は、JETプログラム等により102名の英語ALTを任用している。チームティーチングはもちろん、授業外や学校外の活動にも一層の活用を推進していくために、以下の研修を実施する。

○外国語指導助手の指導力等向上研修（200名参加予定）

○ALT3月研修（110名参加予定）

- ・指導能力向上を図るため、ALTおよび中高英語教員を対象とした研修を行う。研修の一部に文部科学省作成によるALTハンドブックを活用する。外部機関と連携した指導助言者として、福井大学語学センターより講師を招へい予定。ALT110名の参加を見込む。研修後に質問紙調査による評価を行い、次年度以降の研修内容に反映させる。

○ALTによる授業公開および事後研究会

- ・ALTの授業力改善のため、中学校および高等学校のALTがチームティーチング授業の公開と事後研究会を実施。

(4) 年間事業計画

月	都道府県等の取組	外部専門機関等
4月		
5月		
6月	A L Tによる授業公開・事後研究会（高等学校）	
7月	研修協力校（中学校）授業公開①	仁愛大学
8月	小学校5・6年対象英語研修 発音指導法・語学番組活用法研修 中高英語教員指導力向上研修	信州大学 神田外語大学・NHK 山梨大学・立教大学
9月	研修協力校（小学校）授業公開①	敦賀市立看護大学
10月	研修協力校（中学校）授業公開②	仁愛大学
11月	A L T指導力等向上研修	福井大学
12月	研修協力校（高等学校）授業公開① A L Tによる授業公開・事後研究会（中学校） 中高英語教員指導力向上研修	福井大学 山梨大学・立教大学
1月	研修協力校（小学校）授業公開② 発音指導法・語学番組活用法研修	敦賀市立看護大学 神田外語大学・NHK
2月	研修協力校（高等学校）授業公開② 英語教育推進リーダーによる研修（研修実習）（小・中・高）	福井大学
3月	A L T 3月研修	福井大学
【その他の取組】		

